

平成31年度(令和元年度)

大麻中学校広塚分校 「学力向上実行プラン」

研究テーマ

生徒の能力に応じて、きめ細かな支援を行い、生徒のやる気を引き出し、将来の社会的自立につながる学力を身につけさせる。

学力向上検討委員会構成

| | | | |
|---------|----|-----------|--------|
| 学力向上推進員 | 委員 | 教頭 | 松葉 諸勝 |
| | | 教務主任 | 小西 茂 |
| | | 学年主任 | 菅本 一 |
| | | 生徒指導・進学主任 | 小倉 真治 |
| | | 人権教育 | 寺内 やよい |
| | | 特別支援 | 遠藤 はるか |

校長

江藤 将 国

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(めざす子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 |
|---------|--|---|---------|------|-------------|
| よ さ | 小学校の内容から復習する必要がある生徒が多いため、自分の学力の向上を確認しやすい。 | 1時間の授業で、多くの基礎的・基本的語句の習得を目指す。また、確認テスト、中間テスト、期末テスト等において、良い成績がおさめられるようにする(自信を持たせたい)。 | | | |
| 課 題 | その一方で、少しでもつまずくと投げやりな気持ちに陥り、著しく集中力を欠くことがしばしばある。 | 教材研究を入念に行い、個に応じた分かりやすい授業、やる気を引き出す授業を工夫する。授業において、その時間に行う授業内容をホワイトボードに示し、すべきことを確認した上で知識・理解の定着を図る。 | | 評価 | 次年度における改善事項 |
| | | すべての教科でチームティーチングや習熟度別・少人数指導を行い、生徒のやる気を引き出したり、つまずきをサポートできるようにする。 | | | |

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(めざす子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 |
|---------|--|---|---------|------|-------------|
| よ さ | 図や表を書き写すなど、教師の期待に全力で応えようとする姿が見られたり、手先が器用な生徒も多い。 | 充実した自主学習ができる。また、3年生では、原籍校で実施される実力テストや基礎学力テストでも良い成績がおさめられるようにする。 根拠や理由を明らかにしながら、自分を見つめ、考えを表現することができる。 | | | |
| 課 題 | 文章の読解力や聞き取る力が全般的に低く、口頭での質問では、的確な返答をすることが難しい生徒がほとんどである。 | ①徳島学院の職員と連携し、規則正しい生活習慣を確立するとともに、目標や学ぶ意欲を持って授業に参加できるようにする。 ②自分の考えを筋道立てて話したり、文章表現したりする機会を計画的に設ける。 | | 評価 | 次年度における改善事項 |
| | | ①原籍校のテストにも対応できるように、しかるべき時期からは補充学習で難度の高い問題にも挑戦させる。 ②毎週末に反省や目標を書いて発表したり、行事で発表場面を設けたりする。 | | | |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(めざす子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 |
|---------|--|---|---------|------|-------------|
| よ さ | 答えに自信を持っている問いに対しては、積極的に挙手をして、発表することができる。 | ①授業評価(本校が独自に取り組んでいる、授業における生徒の態度の善し悪しを毎時間5段階で判定したもの)を向上させる。 ②主体的・対話的で深い学びにより、「生きる力」を育む。 | | | |
| 課 題 | 授業中、他の生徒の様子に反応し、課題に集中できなくなることがしばしばある。また、学習の積み重ねが苦手なため、特に英語の学力を定着させることが難しい。 | ①視聴覚教材を駆使し、児童生徒の興味関心を引き出す。充実した学習ができていない生徒については、声かけや授業評価に反映させたりすることで、学習意欲を高める。 ②アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を行う。 | | 評価 | 次年度における改善事項 |
| | | 各教科で、すべての生徒が、5段階評価のうち4以上の評価を得られるようにする。 | | | |

平成31年度 学力向上ロードマップ

